

東海地域の地震活動指数 （クラスタを除いた地震回数による）

2014年4月16日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾	
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内 全域	西側	東側	全域	余震除去
短期活動指数	2	4	4	6					
短期地震回数 （平均）	2 (5.29)	6 (7.00)	11 (13.16)	19 (14.15)	3 (6.16)	0 (2.46)	3 (3.70)	7 (6.06)	4 (3.97)
中期活動指数	6	4	2	4	0	0	2	6	4
中期地震回数 （平均）	21 (15.87)	19 (21.00)	31 (39.48)	44 (42.44)	4 (12.32)	0 (4.93)	4 (7.39)	17 (12.12)	6 (7.93)

*Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M≥1.1、駿河湾：M≥1.4

*クラスタ除去：震央距離がΔr以内、発生時間差がΔt以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：Δr=3km、Δt=7日

駿河湾：Δr=10km、Δt=10日

*対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

*基準期間： おおむね長期的ゆっくりすべり（スロースリップ）発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、

浜名湖周辺：1998年－2000年（3年間）、駿河湾：1991年－2000年（10年間）

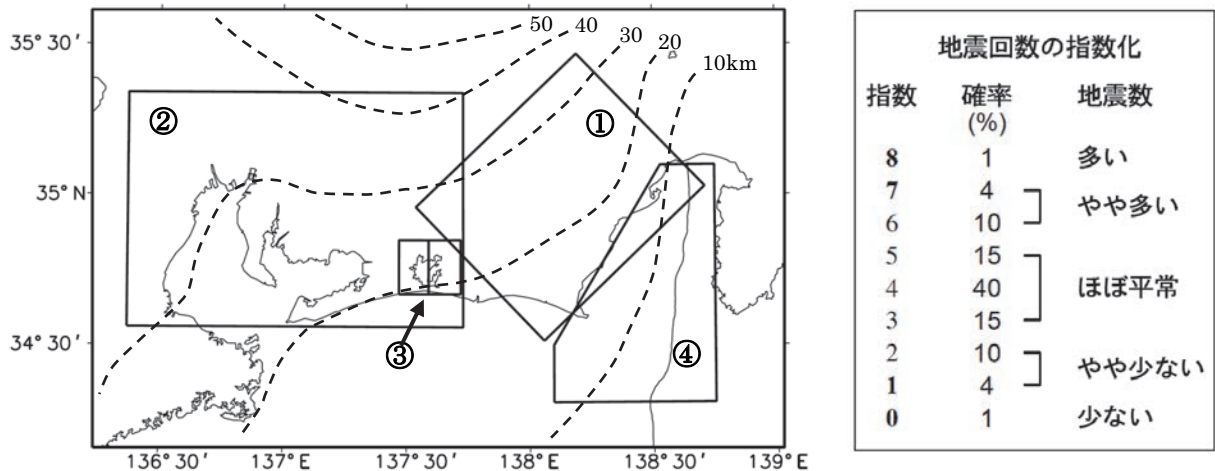
[各領域の説明] ① 静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

② 愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③ 浜名湖周辺：固着域の縁。長期的ゆっくりすべり（スロースリップ）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④ 駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。

余震除去：2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除いて活動指数を求めた場合。



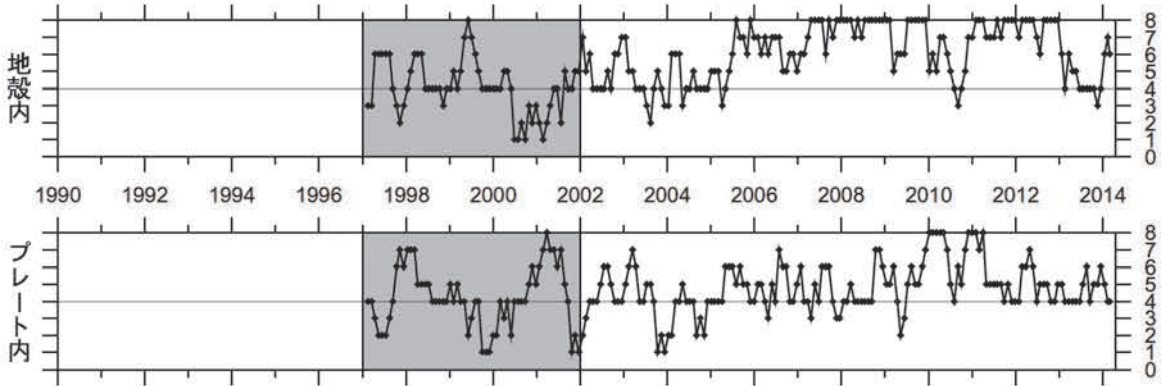
*Hirose et al. (2008) によるプレート境界の等深線を破線で示す

図 2 東海地域の地震活動指数

地震活動指数の推移（中期活動指数）

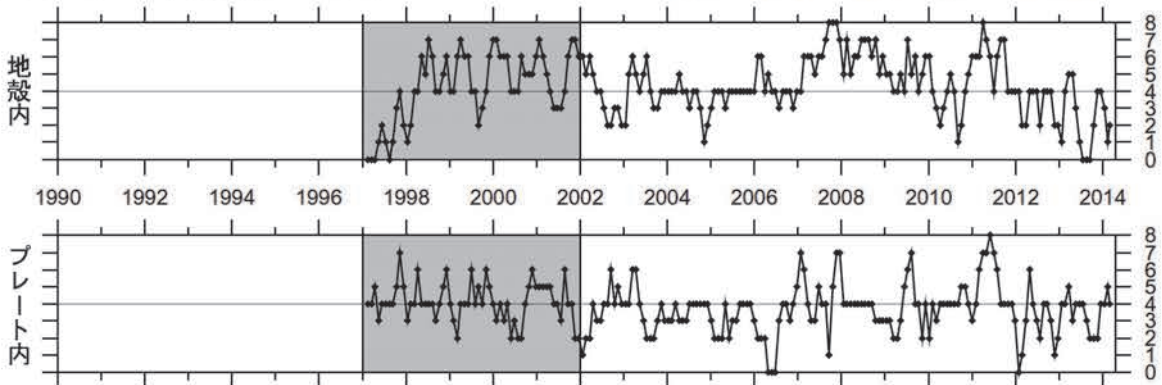
① 静岡県中西部（対象期間：90日）

1997/ 1/ 1~2014/ 4/ 16 M ≥ 1.1



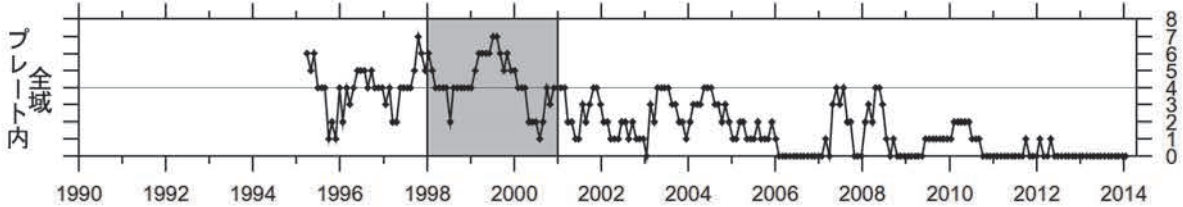
② 愛知県（対象期間：90日）

1997/ 1/ 1~2014/ 4/ 16 M ≥ 1.1



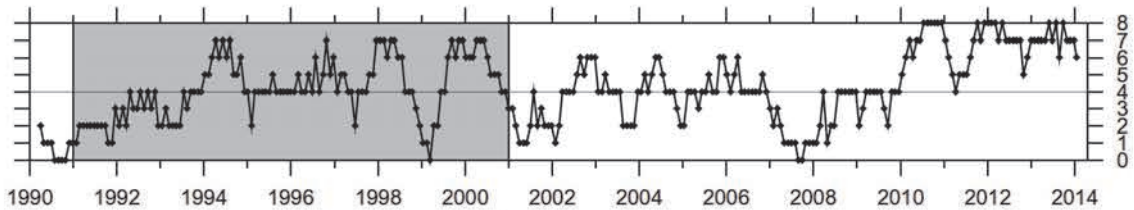
③ 浜名湖周辺（対象期間：180日）

1995/ 1/ 1~2014/ 4/ 16 M ≥ 1.1



④ 駿河湾（対象期間：180日）

1990/ 1/ 1~2014/ 4/ 16 M ≥ 1.4

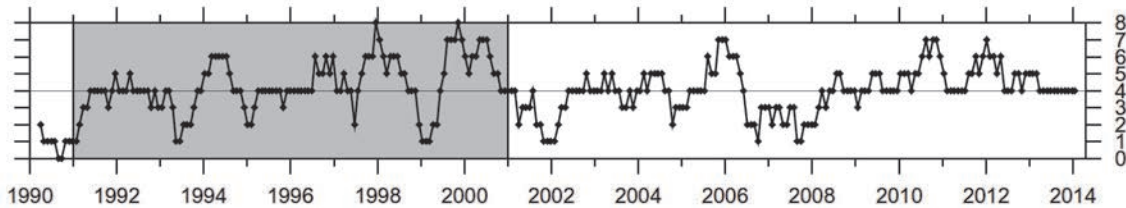


■ : 基準期間 ● : 地震活動指数 (0-8)

2009年8月11日の駿河湾の地震 (M6.5) と2011年8月1日の駿河湾の地震 (M6.2) の余震域の活動を除去した場合

④ 駿河湾（対象期間：180日）

1990/ 1/ 1~2014/ 4/ 16 M ≥ 1.4



■ : 基準期間 ● : 地震活動指数 (0-8)

図3 東海地域の地震活動指数の推移

浜名湖周辺のフィリピン海プレート内では、地震の発生頻度の低い状態が続いている。その他の地域では概ね平常レベルである。